

都市再生整備計画 事後評価書

平成30年 3月19日

地区の名称	黒須田川周辺地区（第2期）		
交付の期間	平成24年度 ～ 平成28年度（5年間）	交付対象	横浜市
計画の目標			

川辺のプロムナードや公園、樹林地などが一体となる水と緑のネットワークの拡充を図り、うるおいあるまちづくりを推進する。
 ①地区内の緑地を保全するとともに、黒須田川沿いに緑豊かな川辺のプロムナードを整備する。
 ②低水路や親水拠点等、環境整備を推進し、豊かな河川の自然環境を整えることで、親しみやすい河川空間を形成する。
 ③まちづくり計画を市民との協働により実現させる。

計画の成果目標（定量的指標）

プロムナード整備等により水と緑のネットワークを拡充することで、プロムナード利用者数の増加を図る。（172人/h→189人/h）
 緑地保全制度に指定することにより、緑の減少に歯止めをかけ、環境資源を保全する。（26.9ha→38.2ha）

定量的指標の定義及び算定式

定量的指標の現況値及び目標値

備考

① プロムナード利用者数

当初現況値 (H23当初)	中間目標値	最終目標値 (H28末)
172人/10h		189人/10h
(H23当初)		(H28末)
26.9ha		38.2ha

② 樹林地の保全面積

全体事業費	合計 (A+B+C)	463	A	463	B	-	C	-	効果促進事業費の割合 (A(提案分)+C) / (A+B+C)	28.0%
-------	---------------	-----	---	-----	---	---	---	---	------------------------------------	-------

事後評価（中間評価）

○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期

事後評価（中間評価）の実施体制	事後評価の実施時期	事後評価：平成28年度末時点
評価の透明性、客観性、公正さを確保するため、学識経験者を入れた評価を実施しました。	公表の方法	横浜市ホームページ

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業

A1 基盤事業				直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象						H24	H25	H26	H27	H28		
12-A-4	地域生活 基盤	一般	横浜市	直接	横浜市	寺家緑地整備事業	用地取得 0.28ha	横浜市						46	
12-A-4	地域生活 基盤	一般	横浜市	直接	横浜市	恩田緑地整備事業	用地取得 1.09ha 一部整備工事	横浜市						210	
12-A-4	地域生活 基盤	一般	横浜市	直接	横浜市	奈良川水辺広場整備事業	水辺広場整備1箇所	横浜市						50	
12-A-4	高質空間 形成施設	一般	横浜市	直接	横浜市	黒須田川プロムナード整備事業	プロムナード整備 L=218m	横浜市						27	
12-A-4	地域創造 支援事業	一般	横浜市	直接	横浜市	黒須田川環境整備事業	落差工改修1箇所 低水路工46m	横浜市						14	提案事業
12-A-4	地域創造 支援事業	一般	横浜市	直接	横浜市	すすき野地域ケアプラザ（仮称）	地域ケアプラザ整備1箇 所	横浜市						116	提案事業
合計													463		

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	河川沿いのプロムナード整備を進めたが、一部未供用で通り抜けできない箇所があるため、利用者数の増加につながらなかった。 緑地整備事業の進捗により、市街地における緑地の保全が進んだ。			
--------------------------------	--	--	--	--

II 定量的指標の達成状況	指標①（プロムナード利用者数）	最終目標値	189人/10h	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	—		
	指標②（樹林地の保全面積）	最終目標値	38.2ha	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	53.0ha		

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)	緑地保全制度による指定が進んだことで、貯留・涵養機能や生物多様性、防災・減災など、樹林地が持つ多様な機能が高まった。 地域ケアプラザが整備されたことにより、地域住民から「地元で充実した活動ができるようになった」との声が届いている。また、身近な場所に活動の場が確保されたことにより、地域住民が自ら行う生活環境向上のための活動への参加者数が増加するなど、地域福祉活動の活性化が図られている。
--	--

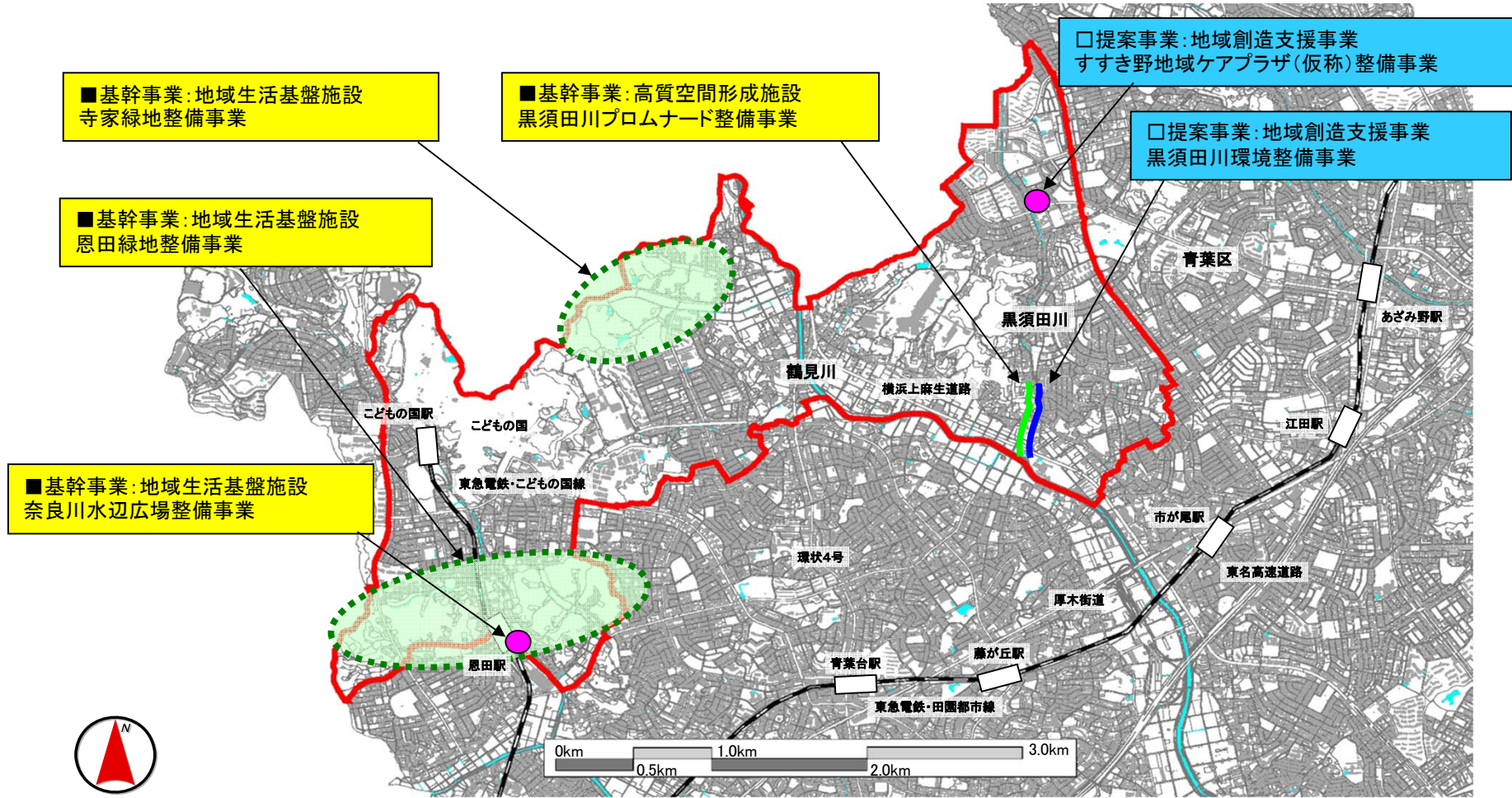
3. 学識経験者の意見

指標①については、事業未了ということですが、事業完了後に改めて事業効果の発現状況を検証することが必要だと考えます。
指標②については、事業効果があったものと認められます。

4. 特記事項（今後の方針等）

- ・親しみやすい河川空間を形成するため、引き続き黒須田川プロムナードの整備を推進する。
- ・すずき野地域ケアプラザは28年12月に新設された施設であり、今後も地域における福祉ニーズの把握を継続的に行うとともに、地域課題を地域の方と共有し、必要な支援や情報提供を行っていく。

計画の名称	黒須田川周辺地区（第2期） 都市再生整備計画		
計画の期間	平成24年度 ～ 平成28年度（5年間）	交付対象	横浜市



様式2-1 評価結果のまとめ

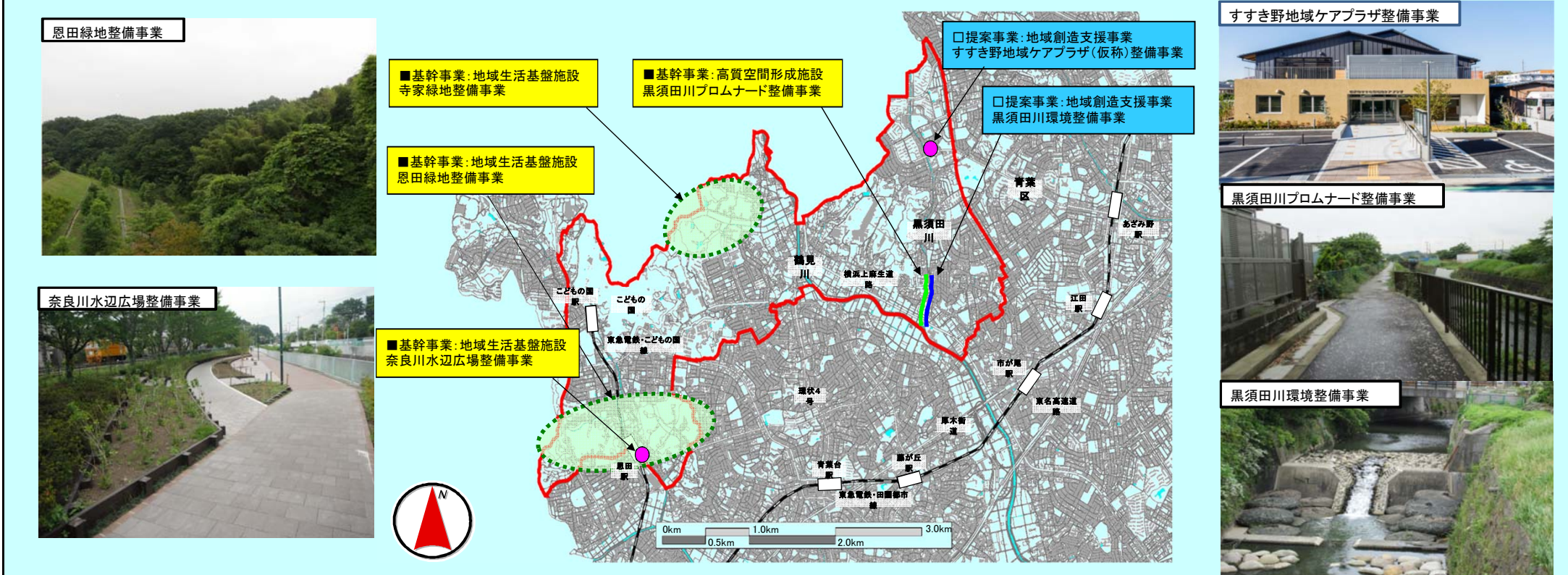
都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	黒須田川周辺地区(第2期)			面積	917ha
交付期間	平成24年度～平成28年度	事後評価実施時期	平成29年度	交付対象事業費	632百万円	国費率	0.4		

1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
		基幹事業	【地域生活基盤施設】寺家緑地整備事業、恩田緑地整備事業、奈良川水辺広場整備事業 【高質空間形成施設】黒須田川プロムナード整備事業										
	提案事業	【地域創造支援事業】黒須田川環境整備事業											
		事業名	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響							
当初計画から削除した事業	基幹事業	なし											
	提案事業	なし											
新たに追加した事業	基幹事業	なし											
	提案事業	【地域創造支援事業】すすき野地域ケアプラザ(仮称)			市民活動のネットワークづくりの一環として、地域活動・交流等の場となる「すすき野地域ケアプラザ(仮称)」の整備事業の追加			影響なし					
交付期間の変更	当初	なし		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更	なし											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	プロムナード利用者数	人/10h	H23当初	172	H28末	189		-	×	ありなし ●	プロムナードの一部が未供用のため、利用者数の増加につながらなかった。	
	指標2	樹林地の保全面積	ha	H23当初	26.9	H28末	38.2		53	○	ありなし	緑地保全制度等により指定された樹林地の面積が想定以上のため。	-
指標3										ありなし			
4) 定性的な効果発現状況	緑地保全制度による指定が進んだことで、貯留・涵養機能や生物多様性、防災・減災など、樹林地が持つ多様な機能が高まった。地域ケアプラザが整備されたことにより、地域住民から「地元で充実した活動ができるようになった」との声が届いている。また、身近な場所に活動の場が確保されたことにより、地域住民が自ら行う生活環境向上のための活動への参加者数が増加するなど、地域福祉活動の活性化が図られている。												

様式2-2 地区の概要

黒須田川周辺地区(第2期)(神奈川県横浜市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
川辺のプロムナードや公園、樹林地などが一体となる水と緑のネットワークの拡充を図り、うるおいあるまちづくりを推進する。 ①地区内の緑地を保全するとともに、黒須田川沿いに緑豊かな川辺のプロムナードを整備する。 ②低水路や親水拠点等、環境整備を推進し、豊かな河川の自然環境を整えることで、親しみやすい河川空間を形成する。	プロムナードへの利用者数	単位: 人/10h 172 H23	189 H28	-
	樹林地の保全面積	単位: ha 26.9 H23	38.2 H28	53.0 H28



まちの課題の変化

課題1: 地区内の「水と緑のネットワーク」の拡充を図るため、プロムナードの連続性の確保および緑地の保全等が必要となっている。→緑地保全制度等により指定された樹林地の面積が増え、緑地保全が進展している。プロムナード整備は一部進んだが、未整備区間があり連続性の確保が引き続き課題となっている。

課題2: 黒須田川の下流部では、河床をコンクリートで覆った区間が続き、河川の自然環境が整えられていないことから、親しみやすい河川空間の形成が必要となっている。→河床及び落差工を改良したことにより、よどみや強弱のある、多様な流れが生まれ、生物の生息環境の再生が図られている。

課題3: 市民活動のネットワークづくりを進めるため、情報提供や様々な活動団体の交流を支援する場の提供が必要となっている。→地域ケアプラザが整備されたことにより、市民の地域活動や交流の拠点、情報提供の場が完成した。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・親しみやすい河川空間を形成するため、引き続き黒須田川プロムナードの整備を推進する。
- ・すずき野地域ケアプラザは28年12月に新設された施設であり、今後も地域における福祉ニーズの把握を継続的に行うとともに、地域課題を地域の方と共有し、必要な支援や情報提供を行っていく。